

エーデルワイスのうた（法政大学山岳部歌）

【作詞】菅沼達太郎
【作曲】小林三郎



雪は消えぬどち春はきざしぬ
風はなごみりて日暖かしぬ
氷河のほとりて滑り行くば
岩陰に咲くアペブルけ
紫のうぐいすの群れ
山に憧れ若人の群れ

（夏）
エーデルワイスの花ほえみて
すはるどき岩角のほろり
山は目覚めぬ夏朝風り
乱雲おぼろめりぬ
命のざあおるぐにア
思わすあおるぐにア
ルペグリユ
エン

（秋）
星影さやかに空澄みわたぬり
葉と銀露に秋立のそわめり
金と銀の露に秋立のそわめり
女神のごとに秋立のそわめり
行く方にも知らずさすらん
行く方にも知らずさすらん

（冬）
吹雪は小叫びのたそがれ迫り
求むる小屋のちよも知り
あはれこる雪の山よりかれず
シア山のちよも知り
あはれこる雪の山よりかれず
寒月すどく原のシユプ
照らす

（結）
あはれに頂うの雪の高嶺に
心静かに頂うの雪の高嶺に
尊き魂の頂うの雪の高嶺に
身も魂の頂うの雪の高嶺に
とわに輝くけ白がえち
清き幸をばくけ白がえち

（春）

雪は消えねど

春はきざしぬ

風はなごみて

日は暖かし

氷河のほとりを

滑りて行けば

岩陰に咲く

アルペンブルーム

紫匂う都を後に

山に憧れ若人の群れ

アルペンブルーム：高山の花々（独）

（夏）

□□□■

エーデルワイスの

花ほほえみて

するどき岩角

金色（こんじき）に照り

山は目覚めぬ

夏の朝風

乱雲おさまり

夕空晴れぬ

命のザイルに

わが身をたくし

思わずあおぐ

アルペングリューエン

アルペングリューエン：日の出前、日没時に山頂の輝くさま、山頂光、「アルプスの栄光」神々しいような一瞬を言う。（独）

（秋）

星影さやかに
空澄みわたり
葉づえの露に
秋立ちそめぬ
金と銀とに
よそおいこらし
女神のごとき
白樺の森
くれない燃ゆる
山より山へ
行方も知らず
さすらい行かん

□■□■□
(冬)

吹雪は叫び

たそがれ迫り

求むる小屋の

ありかも知れず

ああこの雪山 (せつせん)

ちようぢようとして

シーロイファの

行く手を閉ざす

ああこの雪原 (せつげん)

寂莫 (じやくばく) よこして

寒月するどく

シユプール照らす

シーロイファー:スキーマー(独)

（結び）

ああれいろうの

雪の高嶺に

心静かに

頂に立ち

尊き山の

教えを受けん

身も魂も

けがれは消えて

とわに輝く

白光（びやうく）のうちに

清き幸をば

求めうるらん